

Setagaya Art Museum INSIDE/OUT 2010

東野祥子ソロダンス

「I am aroused.....Inside woman」

2010年7/31-8/1 世田谷美術館 くぬぎ広場

今夏、世田谷美術館は、「建築と身体」をテーマとしたダンスプログラム「INSIDE/OUT 2010」を開催します。

このプログラムは、昨年12月当館を設計した建築家・内井昭蔵の展覧会の関連企画として、気鋭の3人の振付家が館内外でサイトスペシフィックなパフォーマンスを展開し、大きな反響を呼んだ「INSIDE/OUT 建築の時間・ダンスの瞬間」に続く、第二弾です。今回は、ダンスカンパニー「Baby-Q」を主宰し、世界からも注目されている振付家・ダンサー、東野祥子のソロ作品を上演します。

東野祥子は、コンテンポラリーダンスの枠を越えて、ダンスの回路を切り開く活動を行っています。活動当初から寺院や屋外、クラブといった劇場外のさまざまな場所で踊り、Baby-Qでは身体を軸にダンスを織り成す様々な要素をコラージュし、虚構と現実が交錯する独自のダンス世界を発信し続けています。それらの作品では奇怪さ、セクシュアリティなどの強烈なイメージがクローズアップされますが、東野の生来の踊り手としての傑出した身体がそれらに介在することで、圧倒的なダンスの力が観るものに迫ってきます。

今回は、東野祥子のソロに着目し、当館の建築空間のシンボルである樹齢百数十年のクヌギの大樹や暮れゆく時間の変化などの自然環境からインスパイアされたダンスを上演します。タイトルの一部にあるように、2008年に初演したBaby-Qのカンパニー作品『私はそそられる I am aroused』のソロパートを追求し、新たな作品として再構築される予定です。

あらゆる場所が展示のみならずパフォーマンスなどにも使えるように、との考えで設計された世田谷美術館。夏の夜、身体、音、映像で切り取られたその空間で何が起こるか、ぜひお立ち会いください。

世田谷美術館
NPO法人Offsite Dance Project

開催概要

プログラムタイトル	世田谷美術館 INSIDE/OUT 2010
作品タイトル	東野祥子ソロダンス「I am aroused.....Inside woman」
日時	2010年7月31日(土)・8月1日(日) 18:30 開場／日没とともに開演(18:45 予定)／19:45 終演予定
会場	世田谷美術館 くぬぎ広場周辺 ※アクセス: 東急田園都市線「用賀駅」から徒歩 17 分 小田急線「成城学園前」より路線バス他(詳細は web 参照)
料金	1500 円(中学生以下および障害者とその介助者は無料) ※ 各日定員 150 名(当日先着)
入場案内等	・パフォーマンスとゲストトークで、約 1 時間を予定しています。 ・芝生の上でご覧いただけます。ベルギービール等のドリンク販売あり ・小雨決行。荒天の場合はスペースを移動して上演する可能性があります。
主催	世田谷美術館(せたがや文化財団) http://www.setagayaartmuseum.or.jp/ NPO 法人 Offsite Dance Project http://www.offsite-dance.jp/
詳細問合せ	世田谷美術館(担当: 塚田美紀) TEL.03-3415-6011 FAX.03-3415-6413 E-mail:m-tsukada@samuseum.gr.jp

上演作品について

東野祥子ソロダンス

「I am aroused.....Inside woman」

構成・演出・振付・出演＝東野祥子／音楽＝カジワラトシオ／映像＝斉藤陽平

ある覚醒の特殊な時間の感覚の中
この場所に何故に存在する私の体

大きな木の下で、、、、

夢の中なのか現実なのか

踊りたいけど踊れない

もんだいは
わたしのなかに小さなもう1人のわたしがいるかどうか
ということです

—東野祥子



「私はそそられる “I am aroused”より(写真:井上嘉和)

東野祥子 Yoko Higashino 振付家・ダンサー <http://www.baby-q.org/>



幼少より踊り始める。2000年BABY-Qを結成。身体から織り成される感情の起伏や衝動、個々の人間の本质をダンスの根底に置き、ダークかつカッティングエッジな電子音響と機械仕掛けの硬質な美術、様々なモチーフの交錯する舞台を創りだす。ソロダンス活動として、煙巻ヨココ名義で即興アーティストとのセッションをクラブ・ライブハウス・ギャラリー・野外等で展開。2004年「トヨタコレオグラフィアワード 2004」にて次代を担う振付家賞(グランプリ)を受賞。2005年「横浜ソロ×デュオ<Competition>」にて未来へ羽ばたく横浜賞(群舞部門)を受賞。

カジワラトシオ Toshio Kajiwara 音楽家 <http://thegordsarecrazy.com/>



1990年初頭よりNYのあらゆる地下音楽シーンに携わり、即興パフォーマンスからクラブDJまで広域にわたり活動。DJオリヴと共に音楽イベント「Phenomena」を主催、パフォーマンス・イベントを企画。同名のレーベルも運営し、ジョン・アップルトンやリュック・フェラーリらの未発表音源等をリリース。その他、1996年以来クリスチャン・マークレー・トリオのメンバーとして世界ツアーに参加するなど、即興音楽家としての演奏活動も多数。NYのカルト的レコード屋「A-1Record Shop」にて店長を勤め、多数の珍盤発掘と再評価をリードしたことも評価されている。

斉藤洋平 (rokapenis) Yohei Saitou VJ・映像作家 <http://www.myspace.com/rokapenis>



先鋭的・アヴァンギャルドな持ち味で、様々なクラブイベントにVJとして参加、空間を生かした映像世界を構築する。バンドなどのPV制作やインスタレーションの発表などにも力を入れ、音楽・アートのジャンルを横断しながら表現の場を拡張し続ける。2000年よりBABY-Qの映像作家として作品の共同制作を行う。2007年American Dance Festival「Dancing for the Camera」にビデオダンス作品『error code』がノミネートされるなど、その実力が世界で高く評価されている。2009年より映像作家 によるパフォーマンス・ショーケース「V.I.I.M project」を主催。

参考:「私はそそられる “I am aroused”」公演データ (2008年1月大阪・芸術創造館初演)

構成・演出・振付: 東野祥子 / 出演: 樋口洋子、MINGO、山本泰輔、ケンジル・ビエン、Pee、川村しゅうた、かなたなか、川田美枝、北原倫子、齋藤亮、松木萌、安政由香、益山寛司、石山優太、東野祥子 / 音楽: 豊田奈千甫 / 映像: ROKAPENIS / 衣装: ペーどろりーの、中嶋佑一 / 舞台美術: Subterraneans / 主催: 大阪市、BABY-Q Lab.

ゲストトーク

終演後、他分野で活躍する作家をゲストに迎え、
多角的な視点からダンスを照射する対談形式のカジュアルなトークを行います。
ベルギービールをご一緒にどうぞ。

7/31 中原昌也 Masaya Nakahara ミュージシャン・映画評論家・エッセイスト（東京）

1970年生まれ。1988年頃より音楽活動を始め、1990年にノイズユニット「暴力温泉芸者」を立ち上げ、海外公演などを通じて国外でも高い評価を受ける。音楽活動と平行して映画評論も手がけ、1998年には小説家としてデビュー、2003年『あらゆる場所に花束が・・・』で三島由紀夫賞、2006年『名もなき孤児たちの墓』で野間文芸新人賞を受賞。その歯に衣着せぬ筆致と、自虐的でありながらユーモアと諧謔を忘れない姿勢、そして批評眼の確かさには定評がある。2009年現在は文筆活動を停止し「HAIR STYLISTICS」名義での音楽活動を主に、ノイズ/サウンド・カラー ジュ/モンド・ミュージックを横断する数々の問題作をリリース。また多数の異ジャンルのアーティストとのコラボレーションも国内外で行っている。

8/1 三浦 基 Motoi Miura 演出家/「地点」代表（京都）

1973年生まれ。桐朋学園芸術短期大学演劇科・専攻科卒業。1996年青年団入団、演出部所属。1999年より文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2001年帰国、「地点」の活動を本格化。2005年京都へ拠点を移す。2008年には初めてオペラ作品『流刑地にて』（原作：フランツ・カフカ、作曲：フィリップ・グラス、東京室内歌劇場主催）を演出し、高い評価を得る。地点では、多様なテキストを用いて、言葉や身体、物の質感、光・音などさまざまな要素が重層的に関係する演劇独自の表現を生み出す。2005年『かもめ』（作：A・チェーホフ）で利賀演出家コンクール優秀賞、2006年『るつぼ』（作：A・ミラー）でカイロ国際実験演劇祭ベスト・セノグラフィ賞、2007年チェーホフ四大戯曲連続上演の第三作『桜の園』で文化庁芸術祭新人賞を受賞。

STAFF 企画担当＝塚田美紀(世田谷美術館)／プロダクション制作＝岡崎松恵(NPO法人Offsite Dance Project)／テクニカルディレクター＝遠藤豊(ルフトワーク)／衣装＝ペーどろりーの／フライヤーデザイン＝京(kyo.designworks)／映像記録＝たきしまひろよし／写真記録＝松原勇太

前回の「INSIDE/OUT」

世田谷美術館を設計した内井昭蔵の回顧展、「内井昭蔵の思想と建築展」(2009年12月12日～2010年2月28日)の関連企画として、12月19日に「INSIDE/OUT 建築の時間・ダンスの瞬間」を開催。3人の振付家が、館内外4ヶ所でサイトスペシフィックなパフォーマンスを展開しました。

内井氏の建築思想から構想した2つのソロに取り組んだ垣内友香里、振付と即興が交り合うスリリングでポップなグループ作品で行き交う人々をも巻き込んだ新舗美佳、くぬぎの大樹のもとで身体と音と光によるコラボレーションに挑んだ鈴木ユキオ。のべ420名の観客が、ゆっくり半日かけてこれらのダンスや展覧会を巡り、建物空間をも体感した好評のプログラム。

■プログラム構成

13:00/16:00 垣内友香里(パティオ/創作室)

15:00 新舗美佳(エントランス前広場)

17:00 鈴木ユキオ(くぬぎ広場)



「etude」振付・出演＝鈴木ユキオ/出演：安次嶺菜緒、加藤若菜
音楽：内橋和久/照明：藤本隆行(ダムタイプ)

「み空ソラ」振付・出演：新舗美佳/出演：安食真、小暮香帆、菅彩夏、増岡みどり、梶子びじん、増田明日未、松田明日香、矢萩もえみ、山賀ざくろ

〈主催：世田谷美術館 企画協力：NPO 法人 Offsite Dance Project〉